資料１

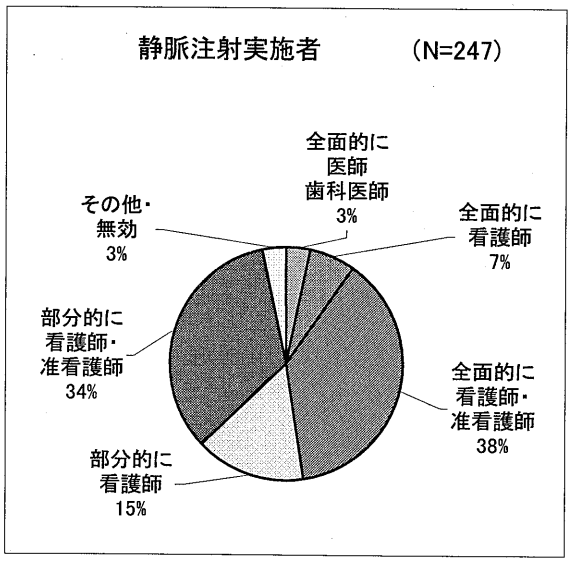
看護師等が行う静脈注射（調査結果）

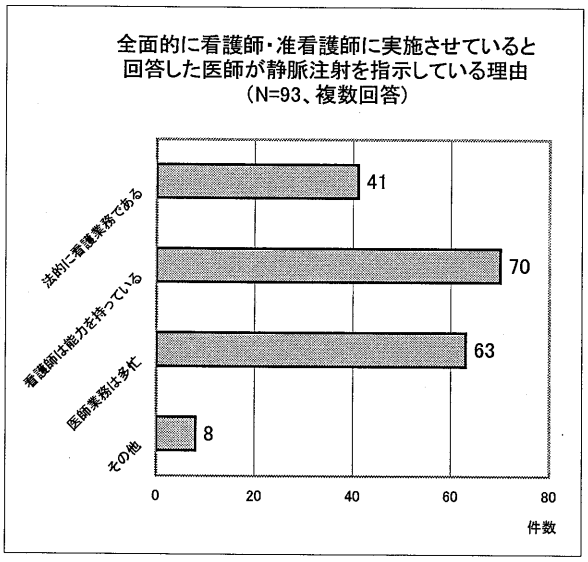
看護師等が行う静脈注射（調査結果）

1．医師の認識

（調査対象）　全国の病院から病床規模に応じ無作為抽出した900病院の中から回答のあった247の対象病院に勤務する医師。

- ○　94％の医師が看護師・准看護師に静脈注射を指示している。
- ○　その理由は、看護職員には静脈注射実施の能力がある、医師の多忙さなどである。
- ○　95％の医師が看護職員の静脈注射実施は相対的医行為と受け止めている。
- ○　静脈注射の範囲は静脈注射（88％）、点滴静脈注射（93％）、輸血（49％）である。
- ○　静脈注射を実施する看護職員の能力が「現状では不足」と回答した割合は約50％で、薬剤知識、感染・安全対策、法的責任である。

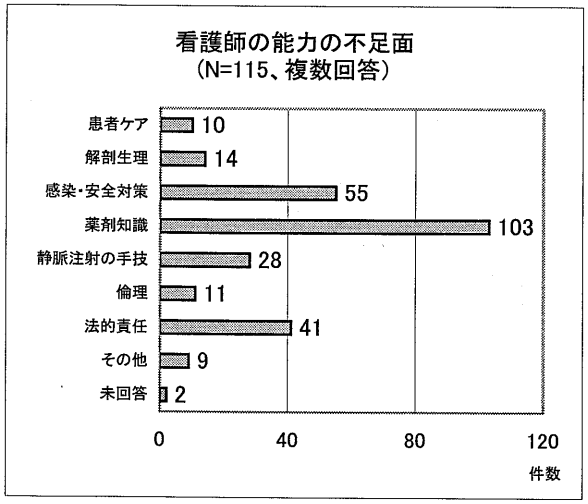




看護師ができる静脈注射の範囲

回答数233件（複数回答）

	静脈注射	点滴静脈注射	輸血
件数	204	217	113
割合	87.6%	93.1%	48.5%

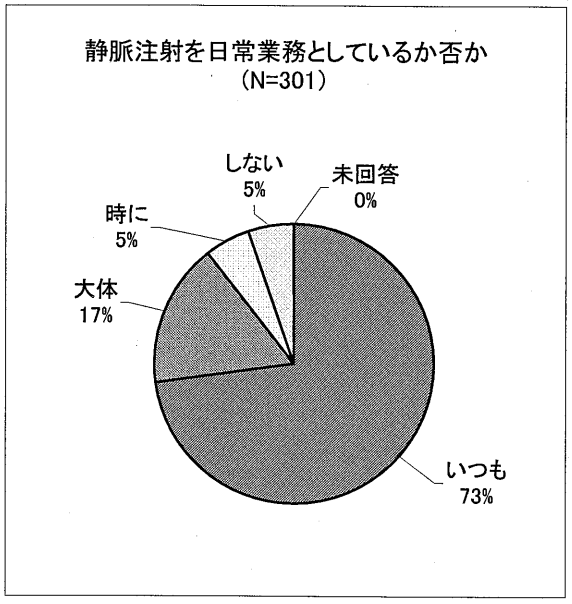


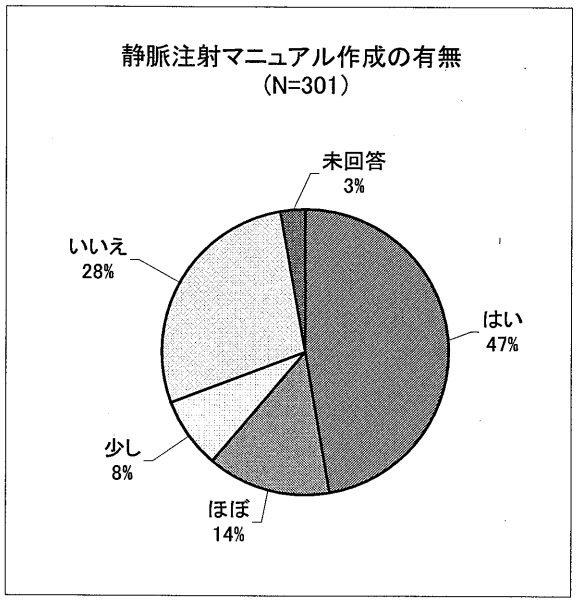
厚生科学特別研究事業　静脈注射実施における教育プログラムの開発（H13）

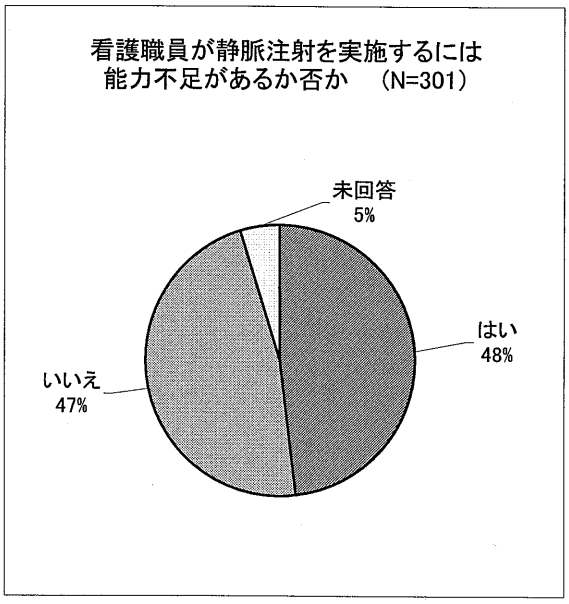
2．看護管理者の認識

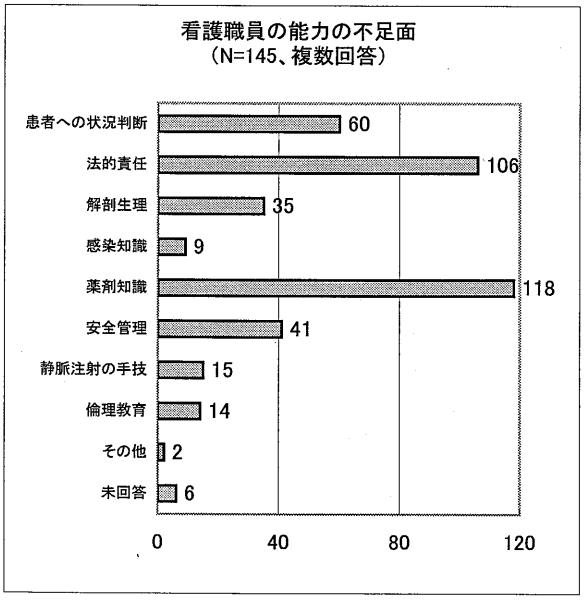
(調査対象)　全国の病院から病床規模に応じ無作為抽出した900病院の中から回答のあった301の対象病院に勤務する看護管理者。

○　90％の看護師・准看護師が日常業務として静脈注射を実施。
○　60％の施設では静脈注射マニュアルを看護部で作成。
○　52％の看護管理者が「静脈注射は診療の補助業務の範囲」としている。また65％の看護管理者は「静脈注射の実施は看護職員の職務である」とスタッフが思っていると回答。
○　看護職員が静脈注射を実施するための能力不足を48％が感じており、薬剤知識、法的責任、患者の状況の判断が必要としている。

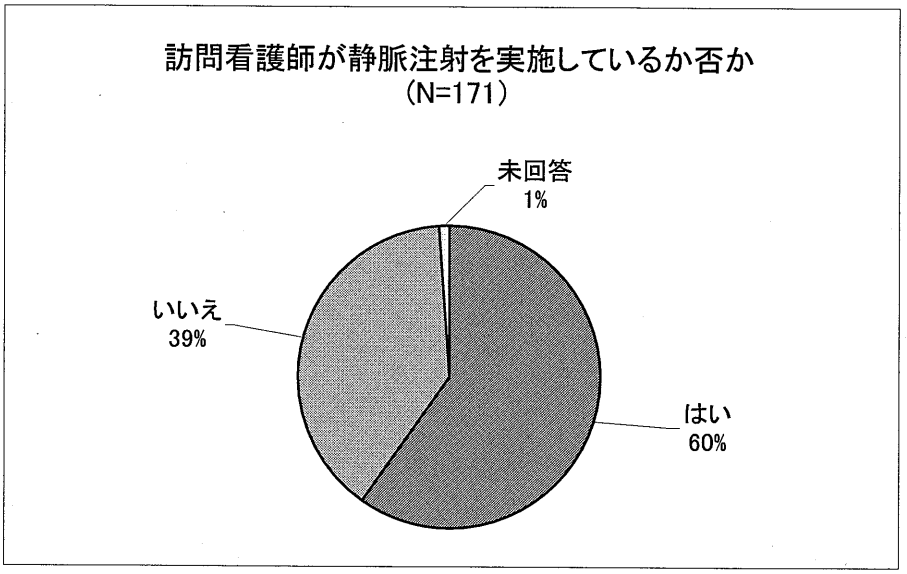
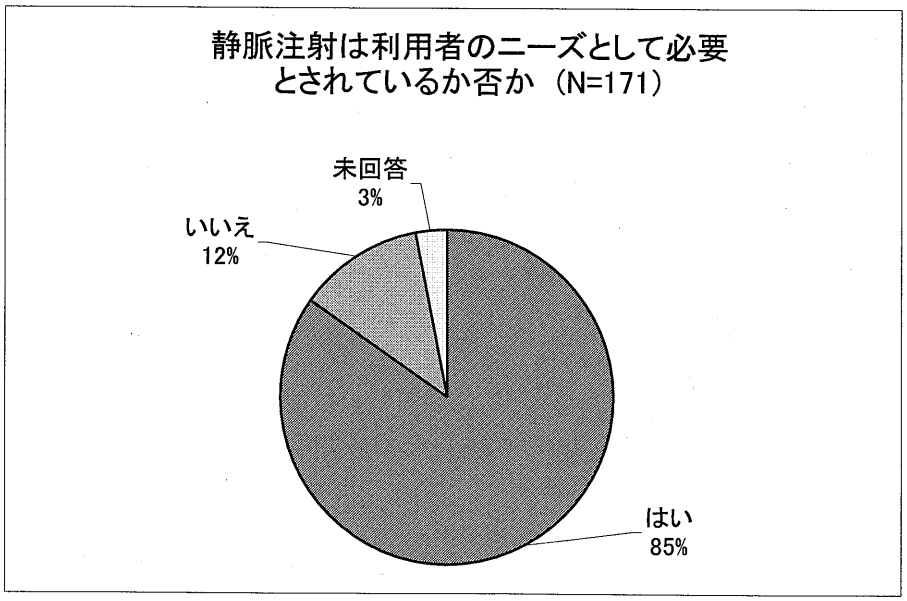








3．訪問看護ステーションの管理者の認識

（調査対象）　全国の訪問看護ステーションから無作為抽出した300の訪問看護ステーションの中から回答のあった171の訪問看護ステーションの管理者。

○　60%の訪問看護ステーションでは静脈注射を実施。
○　85%の訪問看護ステーションでは静脈注射は利用者のニーズとして必要と回答。
○　法的・教育的条件の整備がなされれば看護師が静脈注射を実施することに賛成と回答したものは86%である。